

令和7年度 大田区立田園調布中学校 自己評価 報告書

令和8年3月6日

○ 本校の概要

○本校は、本年度777年目を迎える歴史と伝統のある中学校です。本校に勤務することを誇りに思うとともに、先輩から脈々と受け継いできたよき伝統を守っていきたく思います。また、本校で学べてよかったと実感できる学校づくりをして参る所存です。○本年度は4月1日の時点で新入生が52名(2学級)、2年生47名(2学級)、3年生52名(2学級)、計151名の6学級の規模となりました。現在、日本の社会状況や経済状況は日々変化し、また、価値観の多様化もさらに進んでいます。このような時期だからこそ、教育が果たす役割の重要性や期待が高まっていることを自覚しなければなりません。これからの日本を担っていく子供たち一人一人が、夢や目標をしっかりともち、自己実現を図ることが出来る学校づくりをしていきます。子供たちが確かな学力を身に付け、毎日元気で楽しい学校生活を送ることが出来るよう、誠実にそして心を込めて教育にあたって参ります。○本年度は昨年度に引き続き「タブレット等ICT機器を活用した分かりやすい授業」、「思いやりや主体性を育む体験活動や学校行事」、「考え・議論する道徳」について一層の推進・充実を図ることを重点課題とし、子供たちにとって田園調布中学校が一層「魅力ある学び舎、誇れる学校」となることを目指しています。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策		学校関係者記入欄		
							アンケート回答者数 生徒:137人 保護者:80家庭	コメント	評価	人数	
生予個性測別 力難目標 をな1育 未成来 社を 創的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者アンケート ①「STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成に取り組んでいた。」 肯定的意見 47% (判断できない 40%) ②「学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成に取り組んでいた。」 肯定的意見 87% (判断できない 5%) ③「情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成に取り組んでいた。」 肯定的意見 52% (判断できない 35%) ④「運動会や学習発表会等の学校行事、修学旅行や移動教室等の宿泊行事、社会見学等の校外学習を通して自己肯定感・自己有用感を高める。」 肯定的意見平均 70% 70/100(判断できない平均20%)=87.5%	4: 90%以上 3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満	理科・数学などを中心とした課題解決について、生徒は84%身について回答している。またタブレットの使用した情報活用能力の向上も90%となっている。大田区中学校の中でも、学習系アプリへのログイン数もトップクラスとなったのは、今年度の成果である。 運動会や学習発表会などの学校行事において、自己肯定感、自己有用感が高まっているかとの質問には保護者と生徒と乖離が今年度も見られた。生徒が83%、保護者95%であり、引き続き課題である。	A	5	自己肯定感、自己肯定感の向上に向けた、自ら考え判断していく力をつけることや他の方との協働していくことは特に効果的な切り口であると思います。コミュニティスクールへの取組と相乗効果が高まることを期待しています。 個人差はあるが、それは性格によるものなので全体的には良くなってきている。	
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	③「情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成に取り組んでいた。」 肯定的意見 52% (判断できない 35%) ④「運動会や学習発表会等の学校行事、修学旅行や移動教室等の宿泊行事、社会見学等の校外学習を通して自己肯定感・自己有用感を高める。」 肯定的意見 95% (判断できない10%)	3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満	<改善策> 各教科の授業や学活、総合等において、自ら考え判断する、他者と協働していくことや、個別に振り返りながら、自分の意見をまとめること等で、自己肯定感、自己有用感を高める。協働的な学び、個別最適な学びはICTを有効活用することでさらに養われるので、今年度、高まった生徒の情報活用能力を生かしながら、授業や行事に取り組む。	B	2	学校内外での様々な体験が自己肯定感・有用感を高めていくことは多いと思います。普段の授業でも自ら考え、他者の考えも尊重し、共感することによって、「こんなに出来るようになった」という自信につながり、自己肯定感・有用感が高まっていくのではまいいかと思います。	
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	肯定的意見平均 70% 70/100(判断できない平均20%)=87.5%	1: 70%未満			C	0	ICT教育の先進国である北欧諸国では、その弊害(創造力や自己開発力の低下等)が指摘されています。また、オーストラリアでは16歳未満のSNS使用禁止措置が話題となりました。一方で、インターネットをはじめとする情報技術が発展する社会に不可欠なものです。その社会の中で、STEAMの(A(アート))は重要な役割を持つ分野だと考えます。情報技術が発展する一方で、ITに依存するのでは無人間本来の感性を生かす音楽や芸術の価値を再認識すべきです。二丁目自治会では田園調布小学校で尺八とピアノによる特別授業を実施しましたが、生の人間が作り出す本物に触れた児童達の生き生きとした姿が印象的でした。
		④運動会や学習発表会等の学校行事、修学旅行や移動教室等の宿泊行事、社会科見学等の校外学習を通して自己肯定感・自己有用感を高める。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	肯定的意見平均 70% 70/100(判断できない平均20%)=87.5%	1: 70%未満			D	0	「自分はやればできる」という自信を育むことが自己肯定感を高めることにつながると考えます。勉強だけでなく、成果発表会、校外学習など何でもよいので小さな「できた」を積み上げていくことも得られると思います。保護者アンケートで95%が自己肯定感・自己有用感を高めたいと評価していることは素晴らしいことです。自己肯定感の高い生徒たちですから、主体的に問題解決に取り組むポジティブな行動の循環が生まれることを期待しています。
お世個別 お界別 たと目 をつ標 担な2 うが 人材 を際 育都 成市 し ます	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者アンケート ①「外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、豊かな国際感覚の育成に取り組んでいた。」 肯定的意見 72% (判断できない 18%) ②「我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重しあふ心の育成に取り組んでいた。」 肯定的意見 67% (判断できない 22%) ③「現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成に取り組んでいた。」 肯定的意見 60% (判断できない 22%) ④「英語科授業や英検の補習教室、学校内での年3回の英検実施を通して、中学校3年生の英語検定3級以上の取得者を上昇させていた。」 肯定的意見 62% (判断できない 27%)	4: 90%以上 3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満	外国語教育指導員の活用等による国際感覚の育成は、授業で接する機会が昨年度から増えたことも要因であると考えられる。我が国や郷土の伝統や文化、また人権感覚が身についた生徒は87%と高い。地球規模課題解決については、74%にとどまった。今後、地球規模でも視点で考察する機会等が求められる。	A	6	区における外国人人口の増加など、多文化共生意識の醸成や教育はより重要性が高まっています。国際感覚豊かな人材育成に向けて、力強く取組を進めていただきありがとうございます。 大人もできていないので。	
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重しあふ心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	肯定的意見 67% (判断できない 22%) ③「現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成に取り組んでいた。」 肯定的意見 60% (判断できない 22%) ④「英語科授業や英検の補習教室、学校内での年3回の英検実施を通して、中学校3年生の英語検定3級以上の取得者を上昇させていた。」 肯定的意見 62% (判断できない 27%)	3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満	<改善策> 外国語教育指導員の授業や、各教科で、異なる文化や価値観について探究していける力がつくよう授業改善は継続していく。 また、総合の時間等で、身についた国際感覚、能力を生かして、課題解決につながるような学習活動を設ける。	B	1	国際的なコミュニケーションには、「語る内容」を持つことが不可欠です。そのためには、日本や地元田園調布の文化・歴史への理解が重要です。昨年の「浅間神社例大祭」では、神社や御神輿の由来を英語で紹介するパンフレットを作成し、生徒の皆さんにも配布しました。今後、日本や地域文化を大切にしながら、その活動を通してコミュニティ・スクールの運営に協力していきたいと考えております。 また、中学生にはグローバルな視点も必要です。昨今は本格的な時事ニュースから子供向けまで様々な英語のニュースサイトが存在します。これらを教材として活用し、国際感覚を育てる取り組みを期待します。	
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	肯定的意見 60% (判断できない 22%) ④「英語科授業や英検の補習教室、学校内での年3回の英検実施を通して、中学校3年生の英語検定3級以上の取得者を上昇させていた。」 肯定的意見 62% (判断できない 27%)	2: 70%以上 1: 70%未満			C	0	世界とつながることの第一歩はコミュニケーションであり、その手段として外国語教育指導員をはじめ、金曜英語教室、英語対策WEEKなどに取り組まれています。英検3級以上の取得者が増え要るとのこと、更なる成果を期待しています。保護者には外国語、特に英語に精通している方も多くいますから、保護者に協力を呼びかけ、生きた英語を学ぶことができる機会を作ってはいかがでしょうか。
		④英語科授業や英検の補習教室、学校内での年3回の英検実施を通して、中学校3年生の英語検定3級以上の取得者を上昇させる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	肯定的意見平均 65% 65/100(判断できない平均22%)=87.5%	1: 70%未満			D	0	
た一人別 めひ目 基と標 礎り3 とが 個性 力と能 育力 成を し発 揮する	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケート ①「道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成に取り組んでいた。」 肯定的意見 79% (判断できない 18%) ②「学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべての子どもに確かな学力の育成に取り組んでいた。」 肯定的意見 77% (判断できない 10%) ③「体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立に取り組んでいた。」 肯定的意見 80% (判断できない 15%) ④「乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育に取り組んでいた。」 肯定的意見 45% (判断できない 37%) ⑤「確かな学力と学習習慣の定着を目指し、定期試験2週間前の1日平均学習時間を「学年+1時間」、1年2時間、2年3時間、3年4時間以上を目標として取り組ませている。」 肯定的意見 59% (判断できない 20%)	4: 90%以上 3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満	道徳については86%の生徒が取り組んだことについて身について回答しているが、12%の生徒が日手的な回答となった。 数学、英語の少人数の学習は89%の生徒が学力が身についたと回答している。 健康や食物についても91%の生徒が身についたと回答している。	A	5	学習習慣の定着については、娯楽が溢れるようになってきた昨今においてはなかなか取組が進みにくい難しい課題であると思います。引き続き学習アプリの活用など勉強へのハードルを下げながら粘り強い指導をよろしく願っています。 習熟度に応じた学習指導や個に応じた学習支援は小学校低学年でも行われており、小中連携で継続して行うことは大変有意義で一人一人の自信につながり効果があると思います。	
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべての子どもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	肯定的意見 77% (判断できない 10%) ③「体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立に取り組んでいた。」 肯定的意見 80% (判断できない 15%) ④「乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育に取り組んでいた。」 肯定的意見 45% (判断できない 37%) ⑤「確かな学力と学習習慣の定着を目指し、定期試験2週間前の1日平均学習時間を「学年+1時間」、1年2時間、2年3時間、3年4時間以上を目標として取り組ませている。」 肯定的意見 59% (判断できない 20%)	3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満	小中の連携については、その効果を保護者へお伝えできておらず、37%の高い割合で、判断できないという回答となった。 小中の連携については、その効果を保護者へお伝えできておらず、37%の高い割合で、判断できないという回答となった。	B	1	乳幼児期から中学校までの円滑な接続という観点では、敬老の日に地域の高齢者へ手紙を送る取り組みが印象的です。自治会独自で実施したアンケートでも高い評価を得ています。一方で、手紙の数や配布方法に課題があり、効果が十分に共有されていません。コミュニティ・スクール制度の導入を機に、中学校、田園調布小学校、ルーテル幼稚園、児童館と連携し、世代間交流をさらに進めていく事をご提案いたします。今後30年、50年と引き継ぐ事が可能な地域社会の形成に努めたいと思います。一方、グリーンフェスタ等での生徒ボランティアについては、目的や意義をより明確にする必要があると感じており、生徒達への過剰な負担を考慮し、自治会としても反省材料として捉えております。	
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	肯定的意見 80% (判断できない 15%) ④「乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育に取り組んでいた。」 肯定的意見 45% (判断できない 37%) ⑤「確かな学力と学習習慣の定着を目指し、定期試験2週間前の1日平均学習時間を「学年+1時間」、1年2時間、2年3時間、3年4時間以上を目標として取り組ませている。」 肯定的意見 59% (判断できない 20%)	2: 70%以上 1: 70%未満			C	1	定期試験2週間前の1日学習時間を「学年+1時間」という目標は現実的、取り組みやすい行動計画だと思います。これを達成でき、結果も出た生徒は成功体験を積み上げ学習意欲が高まれば、2週間前を自主的に1か月前、毎日とすることが理想です。現在、60%が肯定評価ですから、まだ改善する余地があると思われます。 残念なのは小中一貫の視点に立った教育への肯定的評価が半数以下であることです。田園調布小学校が新校舎建築に数年かかることから、中学校のグラウンドやプール使用という機会があると考えます。この機会を最大限有効に活用していただきたいと思います。
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	肯定的意見 45% (判断できない 37%) ⑤「確かな学力と学習習慣の定着を目指し、定期試験2週間前の1日平均学習時間を「学年+1時間」、1年2時間、2年3時間、3年4時間以上を目標として取り組ませている。」 肯定的意見 59% (判断できない 20%)	1: 70%未満			D	0	
		⑤確かな学力と学習習慣の定着を目指し、定期試験2週間前の1日平均学習時間を「学年+1時間」、1年2時間、2年3時間、3年4時間以上を目標として取り組ませる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	肯定的意見平均 68% 68/100(判断できない平均16%)=80%	1: 70%未満					

学個別 校力 ・標 教4 師力 を向 上さ せま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 ①「児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善に取り組んでいた。」 肯定的意見 81% (判断できない 0%) ②「教職員がそれぞれの専門性や地域の特色を生かした教育活動に取り組んでいた。」 肯定的意見 68% (判断できない 27%) ③「教職員の業務適正化等に取り組む、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める教育に取り組んでいた。」 肯定的意見 55% (判断できない 32%) ④教職員はタブレット端末を活用した授業改善に取り組んでいた。」 肯定的意見 47% (判断できない 27%) 肯定的意見平均 62% 62/100-(判断できない平均 21%)=78%	4: 90%以上 3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満	タブレットを活用した授業が充実していたと回答した生徒が85%、また月間10日以上、学習系アプリにログインし、授業で高い頻度でタブレットを活用している教員が71%となった。11月には電子黒板等も含め、ICTを活用した授業を100%とすることができた。 地域の特色を生かした教育の取組については、生徒の回答も70%に留まっている。 <改善策> 各教科において、ICTを活用し、誰にもわかりやすいユニバーサルデザインを意識した授業改善は概ね達成できた。継続して授業改善に取り組んでいく。 2 地域の特色を生かした学習は、学年や各教科と取り組みよりも、まずは学校全体で取り組んでいく。 また、ウェルビーイングを高める教育については、保護者アンケートから判断できないとの回答が32%と高い。取り組みを明確化していく必要がある。	A 3	ウェルビーイングについてはその概念についてがなかなか理解が進んでいない部分もあるのではないかと思います。既出の自己肯定感、自己肯定感という部分に大きくつながるところでもあり、今後の取組により、よい結果につながっていくことを期待しています。 保護者に問題があるかも。 ICTを活用し、授業改善が概ね達成できたこと、業務適正化等により児童生徒と向き合う時間ができたことは大変嬉しく思います。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 ③「教職員の業務適正化等に取り組む、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める教育に取り組んでいた。」 肯定的意見 55% (判断できない 32%) ④教職員はタブレット端末を活用した授業改善に取り組んでいた。」 肯定的意見 47% (判断できない 27%) 肯定的意見平均 62% 62/100-(判断できない平均 21%)=78%	3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満	2 地域の特色を生かした学習は、学年や各教科と取り組みよりも、まずは学校全体で取り組んでいく。 また、ウェルビーイングを高める教育については、保護者アンケートから判断できないとの回答が32%と高い。取り組みを明確化していく必要がある。	B 3	本項目では、教職員と生徒・保護者の評価に着しい乖離があります。教職員はOJTというものに対する自己評価が難しい立場にあり、生徒・保護者はその様子を見て評価している可能性があります。この差こそが現状を示しているとも考えられ、評価軸として疑問があります。ウェルビーイングに対する「判断できない」という回答も、その一端ではないでしょうか。
		③教職員の業務適正化等に取り組む、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	4 ④教職員はタブレット端末を活用した授業改善に取り組んでいた。」 肯定的意見 47% (判断できない 27%) 肯定的意見平均 62% 62/100-(判断できない平均 21%)=78%	2: 70%以上 1: 70%未満	2 地域の特色を生かした学習は、学年や各教科と取り組みよりも、まずは学校全体で取り組んでいく。 また、ウェルビーイングを高める教育については、保護者アンケートから判断できないとの回答が32%と高い。取り組みを明確化していく必要がある。	C 1	定量的判断として保護者アンケートを使用するため、周知できていない取り組みについては、評価が下がり気味となってしまう点、残念である。 タブレットの活用もコロナ禍から数年を経て、中学校の教育に定着しているかと推察いたします。全国的にも知見が蓄積されており、効果的な活用を進めていただいていると思います。活用に関し評価が低いのが気になります。また、生徒たちがタブレットを目的外的使用することを防ぐことはできているのでしょうか。 渋沢栄一が理想のまちづくりを行った田園調布は自然に郷土愛を感じる事ができるエリアです。生徒には田園調布の歴史や生い立ちを学習し、魅力をプレゼンテーションするイベントを企画してはどうでしょうか。 「教師のウェルビーイングを高める」という概念規定が難しいと思います。このことを共通目標とすることには無理がないでしょうか。
		④教職員のデジタル技術の活用力を高めるためにICTサポーターによる校内ICT講習会を年3回以上実施し、教員の「まなびポケット」月間10日以上以上のログイン実績を60%以上へ上昇させる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 ④教職員はタブレット端末を活用した授業改善に取り組んでいた。」 肯定的意見 47% (判断できない 27%) 肯定的意見平均 62% 62/100-(判断できない平均 21%)=78%	1: 70%未満	2 地域の特色を生かした学習は、学年や各教科と取り組みよりも、まずは学校全体で取り組んでいく。 また、ウェルビーイングを高める教育については、保護者アンケートから判断できないとの回答が32%と高い。取り組みを明確化していく必要がある。	D 0	タブレットの活用もコロナ禍から数年を経て、中学校の教育に定着しているかと推察いたします。全国的にも知見が蓄積されており、効果的な活用を進めていただいていると思います。活用に関し評価が低いのが気になります。また、生徒たちがタブレットを目的外的使用することを防ぐことはできているのでしょうか。 渋沢栄一が理想のまちづくりを行った田園調布は自然に郷土愛を感じる事ができるエリアです。生徒には田園調布の歴史や生い立ちを学習し、魅力をプレゼンテーションするイベントを企画してはどうでしょうか。 「教師のウェルビーイングを高める」という概念規定が難しいと思います。このことを共通目標とすることには無理がないでしょうか。
た自個 めら 目 学し 標 びく 5 を い き 支 援 い き と 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 ①「インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等に取り組んでいた。」 肯定的意見 54% (判断できない 37%) ②「学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施していた。」 肯定的意見 67% (判断できない 28%) ③「スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っていた。」 肯定的意見 77% (判断できない 17%) ④「不登校生徒の学びの多様化への対応及び教室復帰に向けて、教育相談部と不登校対応巡回教員とが連携しながら、校内教育支援センター「きんなんルーム」の管理体制を整えた。」 肯定的意見 51% (判断できない 48%) 肯定的意見平均 62% 62/100-(判断できない平均 32%)=87.5%	4: 90%以上 3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満	今年度も合理的配慮によるタブレットの使用や、学習支援員による授業の補助などを日常的に行っている。 相談しやすい環境について、生徒からも判断できないとの回答が33%あり、より相談しやすい環境づくりを周知していく必要がある。 <改善策> インクルーシブ教育を意識して、教員と支援員、またスクールカウンセラー等と連携していく体制を継続していく。 また、その体制を生徒、保護者にも知らせるべく、今年度の児童館の子育てネット会議においても、児童館としてそのような生徒に対して何かサポートできる方法はないかという話題が出ました。こうした問題は地域全体で取り組むべき課題であり、それぞれの組織の間を取り持つ役割を担うのが自治会ではないかと考えております。	A 5	相談しやすい環境については、相談を必要とする方以外においてはあまり意識がなされないため、判断できないという回答が伸びやすいのではないかと思います。継続した周知活動をよろしく願いたします。 合理的配慮によるタブレットの使用や学習支援員による授業補助など多くの支援体制が整われており、多様な生徒たちが共に学べる環境が出来ることを願っています。 昨年度の関係者評価の中に、不登校の生徒が1割近くいるとの記載がありました。今年度の児童館の子育てネット会議においても、児童館としてそのような生徒に対して何かサポートできる方法はないかという話題が出ました。こうした問題は地域全体で取り組むべき課題であり、それぞれの組織の間を取り持つ役割を担うのが自治会ではないかと考えております。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4 ②「学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施していた。」 肯定的意見 67% (判断できない 28%) ③「スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っていた。」 肯定的意見 77% (判断できない 17%) ④「不登校生徒の学びの多様化への対応及び教室復帰に向けて、教育相談部と不登校対応巡回教員とが連携しながら、校内教育支援センター「きんなんルーム」の管理体制を整えた。」 肯定的意見 51% (判断できない 48%) 肯定的意見平均 62% 62/100-(判断できない平均 32%)=87.5%	3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満	4 今年度も合理的配慮によるタブレットの使用や、学習支援員による授業の補助などを日常的に行っている。 相談しやすい環境について、生徒からも判断できないとの回答が33%あり、より相談しやすい環境づくりを周知していく必要がある。 <改善策> インクルーシブ教育を意識して、教員と支援員、またスクールカウンセラー等と連携していく体制を継続していく。 また、その体制を生徒、保護者にも知らせるべく、今年度の児童館の子育てネット会議においても、児童館としてそのような生徒に対して何かサポートできる方法はないかという話題が出ました。こうした問題は地域全体で取り組むべき課題であり、それぞれの組織の間を取り持つ役割を担うのが自治会ではないかと考えております。	B 1	合理的配慮によるタブレットの使用や学習支援員による授業補助など多くの支援体制が整われており、多様な生徒たちが共に学べる環境が出来ることを願っています。 昨年度の関係者評価の中に、不登校の生徒が1割近くいるとの記載がありました。今年度の児童館の子育てネット会議においても、児童館としてそのような生徒に対して何かサポートできる方法はないかという話題が出ました。こうした問題は地域全体で取り組むべき課題であり、それぞれの組織の間を取り持つ役割を担うのが自治会ではないかと考えております。
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 ③「スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っていた。」 肯定的意見 77% (判断できない 17%) ④「不登校生徒の学びの多様化への対応及び教室復帰に向けて、教育相談部と不登校対応巡回教員とが連携しながら、校内教育支援センター「きんなんルーム」の管理体制を整えた。」 肯定的意見 51% (判断できない 48%) 肯定的意見平均 62% 62/100-(判断できない平均 32%)=87.5%	2: 70%以上 1: 70%未満	4 今年度も合理的配慮によるタブレットの使用や、学習支援員による授業の補助などを日常的に行っている。 相談しやすい環境について、生徒からも判断できないとの回答が33%あり、より相談しやすい環境づくりを周知していく必要がある。 <改善策> インクルーシブ教育を意識して、教員と支援員、またスクールカウンセラー等と連携していく体制を継続していく。 また、その体制を生徒、保護者にも知らせるべく、今年度の児童館の子育てネット会議においても、児童館としてそのような生徒に対して何かサポートできる方法はないかという話題が出ました。こうした問題は地域全体で取り組むべき課題であり、それぞれの組織の間を取り持つ役割を担うのが自治会ではないかと考えております。	C 1	不登校の生徒の問題はいつ自分の家庭に起こるかわかりませんが、学校は不登校生徒への支援体制を整える努力をしていますが、このことを保護者には十分に理解されていないことは残念なことです。学校ニュースや説明会などを開催ください。別形で学びを得る中で不登校から脱して高校や大学に行く道もあるようですので、寄り添って助言してください。発達障害の子どもの約20%という数値を見たことがありますが、発達障害の生徒が不登校になるケースも多いです。発達特性を持った生徒には保護者の悩みも深いと思われるので、注視して下さるようお願いします。
		④不登校生徒の学びの多様化への対応及び教室復帰に向けて、教育相談部と不登校対応巡回教員とが連携しながら、校内教育支援センター「きんなんルーム」の管理体制を整える。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 ④「不登校生徒の学びの多様化への対応及び教室復帰に向けて、教育相談部と不登校対応巡回教員とが連携しながら、校内教育支援センター「きんなんルーム」の管理体制を整えた。」 肯定的意見 51% (判断できない 48%) 肯定的意見平均 62% 62/100-(判断できない平均 32%)=87.5%	1: 70%未満	4 今年度も合理的配慮によるタブレットの使用や、学習支援員による授業の補助などを日常的に行っている。 相談しやすい環境について、生徒からも判断できないとの回答が33%あり、より相談しやすい環境づくりを周知していく必要がある。 <改善策> インクルーシブ教育を意識して、教員と支援員、またスクールカウンセラー等と連携していく体制を継続していく。 また、その体制を生徒、保護者にも知らせるべく、今年度の児童館の子育てネット会議においても、児童館としてそのような生徒に対して何かサポートできる方法はないかという話題が出ました。こうした問題は地域全体で取り組むべき課題であり、それぞれの組織の間を取り持つ役割を担うのが自治会ではないかと考えております。	D 0	不登校の生徒の問題はいつ自分の家庭に起こるかわかりませんが、学校は不登校生徒への支援体制を整える努力をしていますが、このことを保護者には十分に理解されていないことは残念なことです。学校ニュースや説明会などを開催ください。別形で学びを得る中で不登校から脱して高校や大学に行く道もあるようですので、寄り添って助言してください。発達障害の子どもの約20%という数値を見たことがありますが、発達障害の生徒が不登校になるケースも多いです。発達特性を持った生徒には保護者の悩みも深いと思われるので、注視して下さるようお願いします。
安柔個 心軟 別で 目 教創 標 育造 環 境な を学 習す 空 間と 安 全	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 ①「学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備していた。」 肯定的意見 75% (判断できない 22%) ②「避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めていた。」 肯定的意見 76% (判断できない 22%) ③「学校施設の老朽化に伴い、ガス管改修工事、カーペット張り替え工事等を計画的に進めた。」 肯定的意見 67% (判断できない 24%) 肯定的意見平均 72% 72/100-(判断できない平均 22%)=87.5%	4: 90%以上 3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満	ICTの環境が新型のchromebookへの移行を行った。また、学校全体での掲示物等の環境整備、古い備品の処分、改修工事等も順調に取り組めた。 今年度も避難訓練は月に一度、条件を変えながら、取り組んでいる。 <改善策> 新しいchromebookの導入により、学習系アプリの使用だけでなく、ペンを活用を視野に入れた授業改善を行う。	A 5	授業準備多忙のなか、授業の質の向上に向けた取組を進めていただきありがとうございます。 予算の問題もあると思います。 校舎や施設の老朽化については大変心配しています。早急な対策を願っています。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 ②「避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めていた。」 肯定的意見 76% (判断できない 22%) ③「学校施設の老朽化に伴い、ガス管改修工事、カーペット張り替え工事等を計画的に進めた。」 肯定的意見 67% (判断できない 24%) 肯定的意見平均 72% 72/100-(判断できない平均 22%)=87.5%	3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満	4 今年度も合理的配慮によるタブレットの使用や、学習支援員による授業の補助などを日常的に行っている。 相談しやすい環境について、生徒からも判断できないとの回答が33%あり、より相談しやすい環境づくりを周知していく必要がある。 <改善策> 新しいchromebookの導入により、学習系アプリの使用だけでなく、ペンを活用を視野に入れた授業改善を行う。	B 1	個別目標にある「安全・安心とは何か」を自ら考える事は「柔軟性」や「創造性」の育成に繋がります。現状では、拠点防災訓練において、生徒の皆さんにボランティアという形で参加を願っていますが、防災という切り口は具体的な現実性があり、教育の観点からも有益です。自治会としましては、今後は生徒がより主体的に参加できるようなプログラムを検討していきたいと考えております。 災害がいつ発生するかわからない時代であり、学校は地域の防災活動拠点として地域活動に貢献していると評価されています。継続的な活動を推進ください。
		③学校施設の老朽化に伴い、ガス管改修工事、カーペット張り替え工事等を計画的に進める。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 ③「学校施設の老朽化に伴い、ガス管改修工事、カーペット張り替え工事等を計画的に進めた。」 肯定的意見 67% (判断できない 24%) 肯定的意見平均 72% 72/100-(判断できない平均 22%)=87.5%	2: 70%以上 1: 70%未満	4 今年度も合理的配慮によるタブレットの使用や、学習支援員による授業の補助などを日常的に行っている。 相談しやすい環境について、生徒からも判断できないとの回答が33%あり、より相談しやすい環境づくりを周知していく必要がある。 <改善策> 新しいchromebookの導入により、学習系アプリの使用だけでなく、ペンを活用を視野に入れた授業改善を行う。	C 1	個別目標にある「安全・安心とは何か」を自ら考える事は「柔軟性」や「創造性」の育成に繋がります。現状では、拠点防災訓練において、生徒の皆さんにボランティアという形で参加を願っていますが、防災という切り口は具体的な現実性があり、教育の観点からも有益です。自治会としましては、今後は生徒がより主体的に参加できるようなプログラムを検討していきたいと考えております。 災害がいつ発生するかわからない時代であり、学校は地域の防災活動拠点として地域活動に貢献していると評価されています。継続的な活動を推進ください。
		④学校施設の老朽化に伴い、ガス管改修工事、カーペット張り替え工事等を計画的に進める。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 ④「学校施設の老朽化に伴い、ガス管改修工事、カーペット張り替え工事等を計画的に進めた。」 肯定的意見 67% (判断できない 24%) 肯定的意見平均 72% 72/100-(判断できない平均 22%)=87.5%	1: 70%未満	4 今年度も合理的配慮によるタブレットの使用や、学習支援員による授業の補助などを日常的に行っている。 相談しやすい環境について、生徒からも判断できないとの回答が33%あり、より相談しやすい環境づくりを周知していく必要がある。 <改善策> 新しいchromebookの導入により、学習系アプリの使用だけでなく、ペンを活用を視野に入れた授業改善を行う。	D 0	個別目標にある「安全・安心とは何か」を自ら考える事は「柔軟性」や「創造性」の育成に繋がります。現状では、拠点防災訓練において、生徒の皆さんにボランティアという形で参加を願っていますが、防災という切り口は具体的な現実性があり、教育の観点からも有益です。自治会としましては、今後は生徒がより主体的に参加できるようなプログラムを検討していきたいと考えております。 災害がいつ発生するかわからない時代であり、学校は地域の防災活動拠点として地域活動に貢献していると評価されています。継続的な活動を推進ください。
学地学 校域校 をコ ・目 ツミ 家標 クユ 庭7 リニ ・ま テ地 すイ 域の 核連 と携 して 協 働に よ る	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 ①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施していた。」 肯定的意見 78% (判断できない 18%) ②「登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施していた。」 肯定的意見 43% (判断できない 33%) ③「家庭教育に関する情報の発信やPTAなど連携した講演会・学習会、またはその双方を実施していた。」 肯定的意見 59% (判断できない 25%) ④ボランティア活動 地域防災訓練、ガーデンパーティー等への積極的な参加を促していた。」 肯定的意見 87% (判断できない 10%) 肯定的意見平均 66% 66/100-(判断できない平均 21%)=74%	4: 90%以上 3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満	今年度も田園調布出張所主催の防災活動拠点訓練を地域の方と生徒のボランティアで行った。 新たな試みとして給食試食会を開催できた。 生徒のボランティア参加は32%と昨年度よりも下がっている。 <改善策> ボランティアについては生徒会を中心に有志を募りながら、広く参加を呼びかけることを継続していく。 今後、コミュニティ・スクールの発足に向けて、これまでの地域と連携している活動に加え、講演会、学習会の実施も計画していく。	A 5	熱心な生徒とそうでない生徒に差が激しいかも。 生徒が地域活動に参加したり、地域の方が生徒の見守りや学校へ足を運ぶ機会が増えたりすることは、とても素晴らしいことだと思います。 来年度より実施されるコミュニティ・スクール制度の導入は地域コミュニティの確立において大いに期待できるものです。そこでは「防災」という切り口にとどまらず、文化・芸術・伝統といった分野から世代間交流や共生社会といったテーマまで、幅広いこれまでの慣習にとらわれない新しい形での連携・協働を提案させていただきたいと思っております。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 ②「登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施していた。」 肯定的意見 43% (判断できない 33%) ③「家庭教育に関する情報の発信やPTAなど連携した講演会・学習会、またはその双方を実施していた。」 肯定的意見 59% (判断できない 25%) ④ボランティア活動 地域防災訓練、ガーデンパーティー等への積極的な参加を促していた。」 肯定的意見 87% (判断できない 10%) 肯定的意見平均 66% 66/100-(判断できない平均 21%)=74%	3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満	4 今年度も田園調布出張所主催の防災活動拠点訓練を地域の方と生徒のボランティアで行った。 新たな試みとして給食試食会を開催できた。 生徒のボランティア参加は32%と昨年度よりも下がっている。 <改善策> ボランティアについては生徒会を中心に有志を募りながら、広く参加を呼びかけることを継続していく。 今後、コミュニティ・スクールの発足に向けて、これまでの地域と連携している活動に加え、講演会、学習会の実施も計画していく。	B 1	熱心な生徒とそうでない生徒に差が激しいかも。 生徒が地域活動に参加したり、地域の方が生徒の見守りや学校へ足を運ぶ機会が増えたりすることは、とても素晴らしいことだと思います。 来年度より実施されるコミュニティ・スクール制度の導入は地域コミュニティの確立において大いに期待できるものです。そこでは「防災」という切り口にとどまらず、文化・芸術・伝統といった分野から世代間交流や共生社会といったテーマまで、幅広いこれまでの慣習にとらわれない新しい形での連携・協働を提案させていただきたいと思っております。
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなど連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 ③「家庭教育に関する情報の発信やPTAなど連携した講演会・学習会、またはその双方を実施していた。」 肯定的意見 59% (判断できない 25%) ④ボランティア活動 地域防災訓練、ガーデンパーティー等への積極的な参加を促していた。」 肯定的意見 87% (判断できない 10%) 肯定的意見平均 66% 66/100-(判断できない平均 21%)=74%	2: 70%以上 1: 70%未満	4 今年度も田園調布出張所主催の防災活動拠点訓練を地域の方と生徒のボランティアで行った。 新たな試みとして給食試食会を開催できた。 生徒のボランティア参加は32%と昨年度よりも下がっている。 <改善策> ボランティアについては生徒会を中心に有志を募りながら、広く参加を呼びかけることを継続していく。 今後、コミュニティ・スクールの発足に向けて、これまでの地域と連携している活動に加え、講演会、学習会の実施も計画していく。	C 1	熱心な生徒とそうでない生徒に差が激しいかも。 生徒が地域活動に参加したり、地域の方が生徒の見守りや学校へ足を運ぶ機会が増えたりすることは、とても素晴らしいことだと思います。 来年度より実施されるコミュニティ・スクール制度の導入は地域コミュニティの確立において大いに期待できるものです。そこでは「防災」という切り口にとどまらず、文化・芸術・伝統といった分野から世代間交流や共生社会といったテーマまで、幅広いこれまでの慣習にとらわれない新しい形での連携・協働を提案させていただきたいと思っております。
		④ボランティア活動 地域防災訓練、ガーデンパーティー等への積極的な参加を促し、生徒アンケート「地域力を生かした特色ある教育活動を実施する」の回答で「学期に1回以上行った」の回答を60%以上に上げる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 ④ボランティア活動 地域防災訓練、ガーデンパーティー等への積極的な参加を促していた。」 肯定的意見 87% (判断できない 10%) 肯定的意見平均 66% 66/100-(判断できない平均 21%)=74%	1: 70%未満	4 今年度も田園調布出張所主催の防災活動拠点訓練を地域の方と生徒のボランティアで行った。 新たな試みとして給食試食会を開催できた。 生徒のボランティア参加は32%と昨年度よりも下がっている。 <改善策> ボランティアについては生徒会を中心に有志を募りながら、広く参加を呼びかけることを継続していく。 今後、コミュニティ・スクールの発足に向けて、これまでの地域と連携している活動に加え、講演会、学習会の実施も計画していく。	D 0	熱心な生徒とそうでない生徒に差が激しいかも。 生徒が地域活動に参加したり、地域の方が生徒の見守りや学校へ足を運ぶ機会が増えたりすることは、とても素晴らしいことだと思います。 来年度より実施されるコミュニティ・スクール制度の導入は地域コミュニティの確立において大いに期待できるものです。そこでは「防災」という切り口にとどまらず、文化・芸術・伝統といった分野から世代間交流や共生社会といったテーマまで、幅広いこれまでの慣習にとらわれない新しい形での連携・協働を提案させていただきたいと思っております。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。